第3回MPC勉強会

鶴原康太

November 7, 2023

今回の目標

$$-\frac{\partial V}{\partial t}(x,t) = \min_{u} H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}(x,t), t\right)$$

- 前回のおさらい
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

今までの内容覚えてますか? 復習しましょう!!

前回のおさらい

微分法

<mark>関数</mark> の勾配を考える 停留するとある関数の最大 or 最小

<mark>点</mark> の変動を考える



变分法

汎関数 (関数の関数) の勾配を考える 停留するとある関数の全体

関数 の変動を考える

を最大 or 最小

微分法ではある曲線を最小化 (最大化) することを考えていたけど、変分法ではある評価 関数に基づいて関数全体を最小化 (最大化) する関数を求める

偏微分と似た考え方をする

二点境界値問題の解

Euler-Lagrange 方程式を満たす

制約を含んだ場合

最適性条件まとめ

- 時間を考慮しない -

- 線形 MPC —

予め時間を考慮して出した式から出た最適化問題を 解いたから最適化問題自体は時間を考慮不要

Lagrange の未定乗数法

$$L(x,\lambda) = f(x) + \lambda^{T} g(x)$$

KKT 条件

$$\begin{split} \nabla f(\boldsymbol{x}^*) + \sum_{i=1}^m \lambda_i^* \nabla g_i(\boldsymbol{x}^*) + \sum_{j=1}^n \mu_j^* \nabla h_j(\boldsymbol{x}^*) &= 0 \\ g_i(\boldsymbol{x}^*) &\leq 0 \quad \text{for all } i \\ \lambda_i^* &\geq 0 \quad \text{for all } i \\ \lambda_i^* g_i(\boldsymbol{x}^*) &= 0 \quad \text{for all } i \\ h_i(\boldsymbol{x}^*) &= 0 \quad \text{for all } j \end{split}$$

時間を考慮 -

非線形 MPC —

時間で離散化せずに直接最適化問題を解きたい

Euler-Lagrange 方程式

$$\frac{\partial L}{\partial x} - \frac{d}{dt} \left(\frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) = 0$$

最適化の多様な定式

- Q. なぜ似たようなものがいくつもあるのか??
- A. 同時期 (冷戦期) に 2 人の天才によって最適制御が定式化されたから

8888888



Bellman

Bellman 方程式 HJB 方程式





Pontryagin

最小原理

- 前回のおさらい
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

線形 MPC では離散状態を考えたけど、連続での 制御を考える

Bellman 方程式

$$V(x, t) = \min_{u[t, t+dt]} (L(x, u, t)dt + V(x + f(x, u, t)dt, t + dt))$$

最適制御

状態方程式
$$\dot{x}(t) = f(x(t), u(t), t)$$
 評価関数 $J = \frac{\phi(x(t_f))}{\phi(x(t_f))} + \int_{t_0}^{t_f} L(x(t), u(t), t) dt$ 終端コスト ステージコスト

価値関数 V(x,t): 評価関数 J を最小にする値

$$V(x,t) = \min_{u[t,t_f]} \left(\phi(x(t_f)) + \int_t^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right)$$

最適化を価値関数を探すことだと考える

$$\begin{split} V(x,t) &= \min_{u[t,t_r]} \left(\phi(x(t_f)) + \int_t^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right) \\ &= \min_{u[t,t_r]} \left(\int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{\phi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau}{t} \right) \\ &= \min_{u[t,t+dt]} \left(\int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \min_{u[t+dt,t_r]} \left(\phi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right) \right) \\ &= \min_{u[t,t+dt]} \left(\int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + V\left(x + \int_t^{t+dt} f(x,u,\tau) d\tau,t + dt \right) \right) \end{split}$$

Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

$$V(x,t_f) = \phi(x(t_f))$$

Bellman 方程式が解ければ最適制御ができる!!!(もともとの評価関数を満たす解を求めるのと一緒) 目標の状態 $x(t_t)$ が分かっていれば解けそう??

Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

次元の呪い

次元の呪いは、状態空間や行動空間の次元数が増加するにつれて、必要な計算量やメモリが指数的に増加する現象 2次元の格子が10の場合、合計100のセルが存在します。しかし、10次元の格子が各次元に10のセルを持つ場合、合計で10¹0 = 10,000,000,000のセルが存在します。このように、次元が増加するにつれて格子の数が指数的に増加し、それに伴い計算量も指数的に増加します。

動的計画法まとめ

動的計画法は大きな問題を小さな部分問題に分解し、それ ぞれ解くことで全体の解を得る手法

Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} \left(L(x,u,t) dt + V(x+f(x,u,t) dt,t+dt) \right)$$

- 最適的な性質を持つ
- 計算結果を保存して再利用 (メモ化)

- 前回のおさらい
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

Bellman 方程式から HJB 方程式への変形

$$V(x,t) = \min_{u} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$
$$-\frac{\partial V}{\partial t}(x,t) = \min_{u} H\left(x,u,\left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}(x,t),t\right)$$

HJB 方程式

$$\begin{split} V(x,t) &= \min_u \left(L(x,u,t) dt + V\left(x + f(x,u,t) dt, t + dt\right) \right) \\ V\left(x + f(x,u,t) dt, t + dt\right) \ &\stackrel{\textstyle \longleftarrow}{\leftarrow} \left(x,t\right) \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ \ ^{\textstyle \frown} \ \ \ ^{\textstyle \frown} \$$

$$-\frac{\partial V}{\partial t}\left(x,t\right) = \min_{u} H\left(x,u,\left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}\left(x,t\right),t\right)$$

- 前回のおさらい
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

別の観点から最適制御を考える



最小原理1

最小原理2

もちろん最小原理から HJB 方程式を導ける

最適性条件まとめ

ラグランジュの未定乗数法

KKT 条件

オイラーラグランジュ方程式

動的計画法 (new)

HJB 方程式 (new)

最小原理 (new)

動的計画法から HJB 方程式を導いたが、最小原理からも導けるここに各関係の図を貼る

- 前回のおさらい
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

MPC

Euler-Lagrange 方程式では入力に状態を含んでいないので、 状態が変化 (外的要因によって) する現実システムだと扱い にくい

HJB 方程式は入力に状態を含んでいるが、偏微分方程式なので扱いにくい

現実問題に落とし込んだのが MPC

評価区間が無限の MPC の解は HJB 方程式と一致するはず (たぶん...)

参考資料

書籍

- 非線形最適制御入門 (名著です)
- しっかり学ぶ数理最適化 (最適化全般について)
- はじめての最適化 (変分法の説明が分かりやすいです)